

注意力養成ドリル ワーキング・メモリーセット

(株ネモト)

日本ヒト脳機能マッピング学会 根本樹宏著

<p>ドリルの標的</p>	<p>教育現場で一番問題となっているのが、「無気力」で「人の話がきちんと聴けない」「授業中、つぶして寝ていたり」「おしゃべりが止まらない」等の、いわゆる「授業以前の問題」です。</p> <p>こうした「症状」の大きな原因は「ゲーム」や「メール」等のIT機器の「長時間視聴」や「睡眠時間の減少」。「人と話さない」、「自分で問題解決した経験が少ない」等の生活習慣で、こうした状態は「学力」をはじめ、「人生」全般に大きな影響を及ぼすと考えられます。 脳血流代謝 ゲーム中 メール中</p> <p>本ドリルは、前頭前野のBrodmann10野や46野に代謝を起こす「脳ドリル」をくり返し実施し、「注意力」や「ワーキング・メモリー」を訓練する「脳トレ」で、高校生に元気な脳を取り戻そうというものです。</p> <p>本ドリルの実施校では、生徒が「落ち着いた」「集中時間がのびた」「大人に気を遣えるようになった」、「赤点がなくなった」などの注意力増加効果の他、「生徒同士の仲が良くなった」「死にたい、学校をやめたい、という生徒が減少した」等の「生徒指導効果」がみられます。人間が落ち着き「しっかり」してくる「脳ドリル」です。</p>
<p>適用年齢</p>	<p>15歳以上（集団式：コンピュータ採点）</p>
<p>実施時間</p>	<p>ドリル4ヶ月（2分間のドリル40回／2ヶ月） （5分間のドリル40回／2ヶ月）</p>
<p>用紙・用具 画像ボタン 1 2</p>	<p>ドリルセット 生徒1名分 1,667円（税込1,800円） （セット内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 注意力養成ドリル（2分間のドリル） 40枚 • WMT-BA1146ドリル（5分間のドリル） 40枚 • PFC注意力テスト （ドリル前、ドリル後2回付き。2回目はt検定） • 実施手引き（教師用）
<p>参考書籍</p>	<p>「わかっているのにできない脳」ダニエル・エイメン 花風社 「脳を観る」 マイケル・ポスナー 日経サイエンス社</p>
<p>その他</p>	<p>本ドリルについては、メール、その他でお問い合わせください。 小、中学校については注意力テストの基準がありませんので、学年基準でよければ対応いたします。</p>